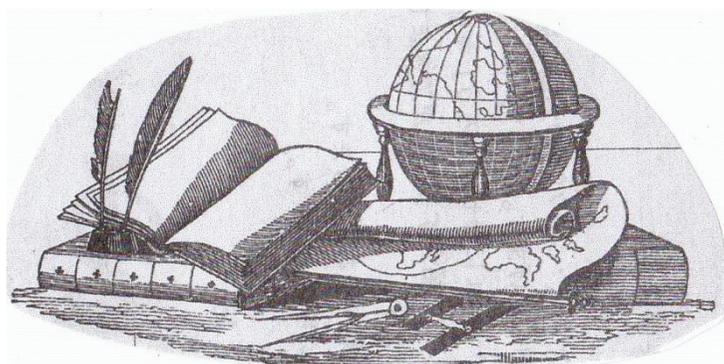


武雄市 TSUTAYA 図書館は 公共図書館のモデルになれるか？



2013年4月、武雄市図書館は、TSUTAYAを運営するカルチャ・コンビニエンス・クラブ（以下CCC）が指定管理者となって再オープンしました。利用者は増え、街の風景が変わった、経済効果も大、と宣伝されています。

実際に何がどう変わったのでしょうか？

静岡図書館友の会

利用者が増えた、というけれど

武雄市図書館の一番の話題は、なんといっても大幅な利用の増加です。
CCC の発表した図書館利用状況を見てみましょう。（2014 年 3 月現在）

注 武雄市図書館は年報や統計を出していないので、CCC の発表に頼るほかないのです。図書館の運営は市民にとってブラックボックスになっています。

	2013 年度	2011 年度	2011 年度対比
1 日平均来館者数	2,529 人	867 人	292%
1 日平均貸出利用者数	460 人	280 人	164%
1 日平均図書貸出数	1,494 冊	1,153 冊	130%
	市内居住者		市外居住者
利用者	56.4%		43.6%
登録者	35.1%		64.9%

新武雄市図書館はカフェ・書店と一体化していますから、来館者数と貸出利用者数の増加率の差はカフェ・書店の利用者であり、市外の利用者・登録者は視察や観光での利用だと推測されます。

つまり、図書館の利用はさほど増えていないのです。しかも、その差はだんだん小さくなっています。これは、一般の図書館が改築・改装した後の変化とほとんど変わりません。

図書館としてではなく、集客施設とし考えれば成功していると言えるでしょう。しかし問題は、集客のための改変によって、図書館部分がどうなったのかということです。

おしゃれなカフェや書店つき図書館と評判ですが？

入口の一番いい場所がカフェと書店になっています。その中を通らなくては図書館部分に行きつけません。

カフェを作るために、子どもコーナーの横にあった子ども専用トイレは廃止されました。無料の水飲み場もなくなりました。

「開架 10 万冊が 20 万冊に」と宣伝されていますが？

開架 10 万冊 + 書庫 10 万冊 ⇒ 開架 20 万冊になっただけです。書庫をなくしたために、開架書架がいっぱいになってしまいました。これでは効果的な配架ができません。

その結果、子どもには手の届かない高い書架にも絵本が置かれる、ということになっています。

TSUTAYA の DVD / CD レンタルコーナー（有償）が新設されましたが？

以前の図書館でも、CD や DVD の貸出（無料）がされていました。図書館におかれる DVD は、貸出許諾付きの特製で、1 点 1 万円以上します。その DVD が 464 点も廃棄されてしまいました。

また、このレンタルコーナーを作るために、併設されていた歴史資料館の常設展示場「蘭学館」は閉鎖されました。

旧蘭学館所蔵の資料 2,224 点は、貴重な資料として 2014 年に国の重要文化財に指定されましたが、その時、常設展示場はなくなっていました。

「雑誌を増やし、館内で読め、購入もできるようにしました。それが、数百タイトルもの雑誌を平積みしたマガジンストリートです。」と言うことですが？

たくさんある雑誌は、最新号を館内で読むだけで、借りることができません。雑誌のバックナンバーが保存されなくなっただけでなく、地域の貴重な記録である郷土雑誌も、多数廃棄されました。新しい図書館では、こうした資料はもう利用する事ができません。

これは一般の図書館に比べて著しいサービスの低下です。

Tポイントカードを図書館の利用カードとしても使えるそうですが？

CCCは2014年11月よりT会員規約を変更し、第三者企業への個人情報提供をはじめると発表しました。利用者はTカードで図書館を利用すると、1日1回3ポイントを得ることができますが、それと引き換えに、利用情報をCCCに提供することになります。

Tポイント会員は、登録の際「年齢、性別、世帯年収、住所、同居子どもの年代、職業」の情報をCCCに提出しています。これらの情報と、図書館利用のデータを掛け合わせて、広告会社に使われることになります。

指定管理になって経費は節減された、とされていますが？

市の直営時代の図書館運営費は、併設する歴史資料館と合わせて1億2千万円でした。新たにCCCに支払われる指定管理料は、図書館単独で年間1億1千万円。歴史資料館は現在も直営で、年間の運営費は4千万円。したがって、市が支出する総経費は1億5千万円とむしろ増えています。

つまり、武雄市図書館はどうなったのでしょうか

新しくできたもの

スターバックスカフェ
ツタヤ書店
CD/DVD レンタルショップ
Tポイントカード

＝商業施設が増えました

無くなったもの

無料の飲食スペースと水飲み場
雑誌のバックナンバーと保存書庫
蘭学館 豊コーナー
おはなしのへや 子ども専用トイレ

＝公共の役割部分が削られました

カフェや書店が同じ建物に入っている図書館は全国にたくさんあります。それらの図書館では、書庫をなくしたり、雑誌のバックナンバー貸し出しをやめたり、利用者の情報を私企業に提供したりしてはいません。公共図書館としての機能を壊さなくても、カフェや書店との共存は可能です。

武雄市図書館を運営する CCC の増田宗昭社長の発言が話題になりました。

GLOBIS.JP によると、講演の場で武雄市図書館について触れ、次のように発言したということです。

「すべてセルフ POS だし、実際には本のレンタル屋だ。要するに図書館なんてものはないと（会場笑）。名前は図書館だが、本のレンタル屋だ。」

この発言は、多くの批判を受け、ネット上では現在以下のように改変されています。（ ）内が後から加筆された部分です。

「すべてセルフ POS だし（最新のレンタル屋で見慣れた仕組みが取り入れられ、さながら）本のレンタル屋だ。要するに（ステレオタイプなレンタル屋もないし、）図書館なんてものはないと。名前は図書館だが、（使われている仕組みの側面で見れば、さながら）本のレンタル屋だ。」

公共図書館政策 G7 各国等との比較

(日本は人口当たりの図書館数も予算額も最低クラスです)

国名	調査年	人口万人	図書館数	10万人 当り 図書館 数	年間予算額		
					調査年	総額 億円	国民当 円
日本	2011	12,706	3,190	2.51	2003	1,131	890.0
アメリカ	2001	25,823	9,266	3.59	2001	9,993	3,869.8
イギリス	2001	5,879	4,170	7.09	2001	1,630	2,772.4
イタリア	2001	5,784	6,000	10.37	1997	433	748.6
カナダ	1999	3,251	921	2.83	—	—	—
ドイツ	2003	8,200	10,584	12.91	2003	896	1,092.7
フランス	1999	5,970	2,893	4.85	1999	702	1,175.9
計・平均		67,613	37,024	5.8		14,785	2,310.2
フィンランド	1999	517	1151	22.26			

『諸外国の公共図書館に関する調査報告書』(2005年)等より作成

G7 諸国は、なぜ図書館政策に力を入れるのでしょうか

それは、公共図書館が人々の力を育て、街の活力を生み出す力があるからです。地域と住民の自治・自立を助ける重要な機関だからこそ、自治体が税金を使って運営する意味があります。

たとえばフィンランドは、子どもたちの学力を支え、また、市民の情報リテラシーを向上させる機関として、公共図書館を重要視しています。フィンランドの図書館利用は世界一です。学力も世界一です。

静岡県図書館大会（2007.10.15）での
石川嘉延静岡県知事（当時）の挨拶要旨

図書館について二つの点で重要と考えている。

どこの街でも中心市街地の空洞化は深刻だが、静岡市中心部にある図書館の単位面積あたりの集客力はデパートや繁盛している店より大きい。しかも来館者の年齢層がバラエティに富んでいる。図書館活動は中心部の賑わいを演出している。

静岡市の図書館は、このように多くの市民に利用されています。

カフェやCD レンタルショップがあるから？

ポイントがたまるから？

いいえ、違います！

新しいものや古いもの、たくさんがよく選ばれた本があるから。

雑誌のバックナンバーや古い新聞がそろっているから。

図書館でなくては手に入らない資料があるから。

10年、20年単位の長い目で図書館を見、資料を選ぶ司書がいるから。

図書館運営のノウハウが静岡に蓄積されているから。

発行日 2015年3月

発行者 静岡図書館友の会

連絡先 Tel 080-6910-9434 （月－金 10時－15時）

E-Mail sizutomo2008@yahoo.co.jp